

平成 30 年 7 月 23 日

7 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では梅雨明け後も順調な原木生産が続いている。出材も比較的順調に進んでいるため、入荷量は平年並み。夏場に向けて原木不足が続くと見られ、品薄感から昨年より早く反発した。とくにスギ 3m 柱材・小径材の引き合いが強く、値上げに転じている。スギ中目材は保合い。ヒノキ材は 4m 土台・3m 柱材が小幅な値下げに止まっているが、夏場に向けて値上げに転じるものと予想される。

群馬県でも原木の出材は順調で集荷は容易。原木価格も下落傾向にある。原木在庫は十分。操業は順調に進んでおり、多忙な状況にある。公共工事と一般物件が重なり、8 月末までの仕事は確保している。プレカット工場からの問い合わせは微増。製品市場からの発注はあるが、細かい特注品が多い。製品在庫は羽柄材が全体的に品薄だが、母屋、柱、桁等には一服感が出ている。角類の価格が一時期に比べてやや値下がりした。

2. 米材

米加北西部の伐採は平年通り。山火事警戒のレベルまでには上がっていない。米国では順調に在庫が積み上がっているが、カナダでは旺盛な国内需要で依然在庫の積み上がりは見られず、米加間での温度差が続いている。ウェアハウザー社の 7 月積み対日価格(推定)は 6 月価格据え置き of \$1,010 で決着。日本側の値下げ要請に対し、好調な産地事情を背景に据え置きで押し切った形となった。米国製材品市況は 6 月中旬に最高値から反落、その後 3 週続落となっているが、依然史上最高値圏で推移している。ランダムレング紙 15 種平均価格(6/30 現在)は \$547/M で 6 月頭に比べ 6.0%down。現地 SPF#2 価格は最高値を更新後、落ち着きを見せているが、日本向け J グレードの第 3・四半期のオファーは最高値となった。5 月の原木入荷量は 235 千 m³、1~5 月累計で 1,138 千 m³(前年同期比 1.3%減)、出荷量は 255 千 m³、1~5 月累計で 1,114 千 m³(同 3.2%減)とほぼ入出荷が見合った形となった。在庫は前月より 20 千 m³減の 222 千 m³となり、在庫率は再び 1 ヶ月を割った。国内の米材製材工場は現地挽き DF 製材品の入荷が少ないため、小角の荷動きが好調で、生産、出荷とも前年同期並みを維持している。6 月の東京木材埠頭の入荷量は 27 千 m³

(前月比 31.0%増)、出荷量は 25 千 m^3 (同 6.6%減)、在庫量は 52 千 m^3 (同 2.1%増)。

3. 南洋材

サバ州では原木輸出禁止の決定後、機材を山から下ろしている情報もあり、この状況が続けば年末まで伐採しない可能性もある。サラワク州では原木輸出枠の発給期間が今年は 12 月まで延長されたので、輸出枠は予想されていた 10%が年内 20%で据え置きとなった。ソロモンでは中国市場の一服感で市況は落ち着いているが、サバ禁輸の影響が PNG に来ており、価格が上昇。7 月予想の原木入荷は約 7 千 m^3 、出荷は 10 千 m^3 、在庫は 20 千 m^3 、製材品の入荷は 40 千 m^3 。6 月の商況は良くなったが、フリー板は国内在庫が多く、若干調整中。

4. 北洋材

夏山シーズンに入り、伐採自体は減少。今後夏伐り原木が中心で、赤マツ良材は不足する模様。原木産地価格はアカマツ\$190 前後で今シーズン終了、カラマツ\$180 前後で強含み。現地挽き完成品は\$525 唱えの高値警戒感から成約は不調。原板も高値警戒感が強いが、日本の製材メーカーは契約残があり様子見。国産完成品は安定した荷動きだが、原板コストの上昇幅が大きく、今後、相当な値上げを唱える必要がある。7 月予想の原木入荷は 6 千 m^3 、出荷 4 千 m^3 、在庫 18 千 m^3 、製品入荷(東京+川崎)は 19 千 m^3 、出荷 18 千 m^3 、在庫 42 千 m^3 。

5. 合板

原材料について、国産材は高値張り付きであるが、スギの需給バランスは比較的取れている。カラマツは引き合いが強く価格は上昇。ロシア材も強含みの上、配船遅れなどで見通しが悪い状況。米材は日本向けがタイトで価格も上昇。南洋材は原木不足の影響で依然価格も強い。5 月の国内合板生産量 26.3 万 m^3 のうち針葉樹合板は 25.2 万 m^3 、出荷量は 24.1 万 m^3 となり、先月から 1 万 m^3 減となった。在庫量は 14.1 万 m^3 、うち構造用合板は 11.7 万 m^3 と 2 月から毎月増加している。国内針葉樹合板は依然強い停滞感が続いており、6 月も低調な推移のままであるが、メーカーの 7 月出し価格は横ばいと強気姿勢に変化はない。売上作りの安値も多く見られ、メーカー出しの価格では通りにくくなっている。品薄感のあった 9mm、15mm も比較的安定方向に向かっている。ラワン構造用 9mm の不足感が続いており、ラワン構造用 12mm、生型枠が品薄状況。5 月合板輸入量は 27.5 万 m^3 と大幅に増えた 4 月よりも 9 千 m^3 多くなった。増えたのは中国の LVL やインドネシア産の塗装型枠などが目立つ。産地マレーシアでは天候は回復しているが、河川の水位が低下し、原木

を下ろせない状況。伐採量自体が落ちているため集材は依然厳しい。インドネシアでは依然原木が少なく生産量が減少。比較的生産可能なシッパーと厳しいシッパーの二極化となっている。先行き、針葉樹合板に関して大手プレカット業者が動き出す話も多く聞こえ、現状散見されている安値が減っていくのか注視していく必要がある。

6. 構造用集成材

ラミナの第3・四半期の価格交渉は前回値プラス3~5ユーロ/m³に落ち着いてきた。世界的に旺盛な需要が続く、欧州製材メーカーの在庫は少ない。北欧の原木価格もジリ高。当面、欧州製材メーカーの優位が続く模様だ。ラミナ価格は上がっているものの国内集成材メーカーの採算性は改善されず、値上げが必要であるが、RW平角の供給過多で厳しい状況にある。国内メーカーの受注は落ち着いている。RW梁桁の販売、荷動きは鈍い。7月に入り、プレカット工場の稼働率は上がって来ているが、荷動き好転までは至っていない。輸入WW管柱の過剰感は解消されつつある。米マツ小角の代替品としてRW小断面の輸入を増やす動きが見られる。

7. 木材チップ

チップ原木の入荷は順調で概ね例年並み。解体材の入荷も例年並みだが、製紙・バイオマス発電共に大型定期修理があり、余剰感が継続している。製紙用国内針葉樹チップは増集荷を継続中だが、定期修理があり、消費量は削減中。燃料用も大型定期修理があり、消費量は削減中。チップ工場では出荷減少のため置場の確保に苦労している。輸入針葉樹チップに割高感があり、国内産チップの出荷要請を継続中。

8. 市売問屋

記念市でも当用買いの域を出ず、6月の材木店の荷動きは悪い。国産材の入荷は少ないが、増改築分の荷動きで不足感はない。外材は値上がりといっても細かい仕事のためか反応がない。造作材はスギ、ヒノキとも動きが悪く、積層材の使用が増えている。ピーラー、スプルースの動きも国産材同様悪い。

9. 小売

米マツは横ばい、米ツガはサイズにより値上がり品目も出ている。東京地区では米ツガの代替が少しずつ進むも、なかなか米マツに移行しない。欧州材は全体に強含み。造作材は春先よりは少し持ち直した感があるが、価格は保合い。下地のFJ、LVLは少しながら動きが出てきた。輸入合板は停滞し、荷動きが良くない。国産針葉樹合板はプレカットに動きが出てきた模様だが、町場の動きは未だ良くない。型枠合板は横ばい。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	↘	→	↗
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↗	↘	↘	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↗
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	↗
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
	製材品	産地価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産) 同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗ →
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
		アカマツ (KD) 16×40上級	→	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↗
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→